<table>
<thead>
<tr>
<th>Title</th>
<th>東京大学国文学研究室蔵奈良絵本『朝日奈』解題・翻刻</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Sub Title</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Author</td>
<td>徳竹, 由明(Tokutake, Yoshiaki)</td>
</tr>
<tr>
<td>Publisher</td>
<td>慶應義塾大学国文学研究室</td>
</tr>
<tr>
<td>Publication year</td>
<td>2001</td>
</tr>
<tr>
<td>JaLC DOI</td>
<td>10.14991/002.20010900-0090</td>
</tr>
<tr>
<td>Abstract</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Notes</td>
<td>資料紹介</td>
</tr>
<tr>
<td>Genre</td>
<td>Departmental Bulletin Paper</td>
</tr>
</tbody>
</table>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.
東京大学国文学研究室蔵善本書「朝日奈」
解題・翻刻

徳竹由明

東京大学国文学研究室蔵善本書「朝日奈」は、鎌倉時代前期有力御家人和田義盛の三男である朝比奈三郎義秀にまつわる「草摺引」（「門破り」「地獄破り」等の伝承を集めたもの）である。なお前半にはその前史として三浦和田氏の系譜、義秀の曽祖父三浦大介義明や伝承の世界で義秀の母とされる巴御前の伝承等を附している（松本隆信氏「増訂室町時代物語類現存三帖」と紹介されているものの、未翻刻の資料である故こに翻刻・紹介する。）

以下に簡単な書誌を記す。

表紙・欠損（但し各帖の背の部分に、紺色衣に金箔をちらした表紙の痕跡あり。）

内題・なし。

寸法・縦二十四・四 grues、横十七・六 grues。

表紙・欠損（但し各帖の背の部分に、紺色衣に金箔をちらした表紙の痕跡あり。）

奥書・なし。

写年・「近世前期」。
左端中程に「あさる中」。第三帖右上に「五

左端中程に「あさる中」。第二・三帖の左端の墨

書は後掲の図版の如く左端が途切れているが、右の

如く読める。

翻刻に際し、本文は底本に於ける、忠実にならばなるよう努めたが、

漢字・異体字は概ね現行の字体に改めた。また私に断念点を記

し、改行を行った。底本に丁付けは記されていないが、（二表

の如く略記した。また摺絵はまとめて後掲した。

資料の掲載：翻刻をご許可頂いた東京大学国文学研究室に厚く

敬意を存じます。

【翻刻】

（第一帖）

なかたおかとうに、あさいな三郎よしひてて、大ちから

のたけき人あり。そのせんさし、人う五十代のみかをと

のし、くわんも天とうとそ申しる。このし、つうし

のうと申し上げます。

（第二帖）

資料の掲載：翻刻をご許可頂いた東京大学国文学研究室に厚く

敬意を存じます。

【翻刻】

（第三帖）

もたれともきたかなをの人々といふ人の、ううのうを

とる。つかがたまをまちかわり。そのときは天暗け、その

ゆえに

とおって、とくのうとふたつに

して、あつたはかせ、あへのやすなりといふを

して、おおなはせ

はね、これたと（三表）

まものもへかしよるなりと申申けに

をし、たてにしのはいけば、うらを

たって、たまのにたんをとる。すかりと

し、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うなりとし、うかたを、たも

をし、うかたを、たもものへこ

けり。これを、うかたを、たも

うな
五里。よしもりか子、あさいかの三郎よしもりなり。果ては
そのようすれ、よしもりか子は和田の小郎よしもりといふ
大へこくあまつぎはり、なて天下にあらしはしたる物なり。
そのこよしすれ、よしもりか子は

岩をひつり、いろくのじんべんともあり。人の子となれ
としに、このみうらの一門は、いつれも人にすけれて力みよ
く、もたけるかさしとれも、あさいかのはりにことならす。

心ゆかしかしで、おくにあらしはしたる物なり。このみうらの一門は、
いつれも人にすけれて力みよく、もたけるかさしとれも、あさいかのはりにことならす。
それらの神々をなげき給へて、かかきをして、いは戸のわきにいまし
て、日を引出してまた答え給へば、天下はまたはれか。

【表一】

四表には、たけ一丈あまりにみゆる石のこけむるるか、み
ちのたたけしして、もやの石のかけ、たに、みを
はせありきて、めにたるるのこけむる物をなげふふするに、あた
るかこりては、十二三のとじりめされ、われをはなれ
さしかけば、十二三のとじりめされ、われをはなれ

【表五】

四表のせしにありて、大木をほくとしにひ、たけをは、

【表四】

三にんこれをみて、にんげんのはしょいはあらず、

【表三】

四にんことをみて、にんげんのはしょいはあらず、

【表二】

四にんことをみて、にんげんのはしょいはあらず、

【表一】

四にんことをみて、にんげんのはしょいはあらず、

【表五月】

四にんことをみて、にんげんのはしょいはあらず、

【表四】

三にんこれをみて、にんげんのはしょいはあらず、

【表三】

三にんこれをみて、にんげんのはしょいはあらず、

【表二】

三にんこれをみて、にんげんのはしょいはあらず、

【表一】

三にんこれをみて、にんげんのはしょいはあらず、

【表五月】

三にんこれをみて、にんげんのはしょいはあらず、
ね đấyってさてたたりする。ごらんにつけるのはもとも、このよしをみるよりも、ひとへにきじんのしよなりて、四つのかくさはてしかは、かしこに物のぐぬきさて、しなのくへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへヘ

『第三帖』

ともへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへヘ

『十二帖』

へへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへヘ

——95——
人つて、いま人間の、みをよばはたらきをしれ
（十九表）

< emoji >